

陀羅尼品六箇の大事

第一 陀羅尼の事

御義口伝に云はく、陀羅尼とは南無妙法蓮華經なり。其の故は、陀羅尼は諸仏の密語なり。題目の五字は三世の諸仏の秘要の密語なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉るは陀羅尼を弘通するなり。捨惡持善の故なり云云。

第二 安爾曼爾の事

御義口伝に云はく、安爾とは止なり。曼爾とは觀なり。此の安爾曼爾より止觀の二法を釈し出だしたり。仍よつて此の呪しゅは藥王菩薩の呪なり。藥王菩薩は天台の本地なり。安爾とは我等が心法なり妙なり。曼爾とは我等が色法なり法なり。色心妙法と呪する時は即身成仏なり。

第三 鬼子母神の事

御義口伝に云はく、鬼とは父なり、子とは十羅刹女なり、母とは伽利帝母かりていもなり。逆次ぎやくじに次第する時、神とは九識なり、母とは八識へ出づる無明なり、子とは七識六識なり、鬼とは五識なり。流轉門の時は惡鬼なり。還滅門げんめつもんの時は善鬼なり。仍よつて十界互具百界千如の一念三千を鬼子母神十羅刹女と云ふなり。三宝さんぼう荒神とは十羅刹女の事なり。所謂すゐ飢渴神けかちじん・貪欲神どんよくじん・障礙神しょうげじんなり。今法華經の行者は三毒即三徳と転ずる故に三宝荒神に非ざるなり。荒神とは法華不信の人なり。法華の行者の前にては守護神なり云云。

第四 受持法華名者福不可量の事

御義口伝に云はく、法華名とは題目なり。者とは日本国の一切衆生の中には法華の行者なり。又云はく、者の一字は男女の中には別して女人ほを讚めたり。女人を指して者とは云ふなり。十羅刹女は別して女人を本とせり。例せば竜女どだつくしゅじょうが度脱苦衆生とて女人を苦の衆生と云ふが如し。藥王品ぜきやうでんしやの是經典者の者と同じ事なり云云。

第五 皐諦女の事

御義口伝に云はく、皐諦女は本地は文殊菩薩なり。山海までも法華經の行者を守護すべしと云ふ經文なり。九惡一善とて皐諦女をば一善と定めたり。十惡の煩惱ちゅうとうの時は偷盜に皐諦女は当たれり。逆次に次第するなり云云。

第六 ^{ごばんじんしゅ}五番神呪の事

御義口伝に云はく、五番神呪とは我等が一身なり。妙とは十羅刹女なり、法とは持国天なり、蓮とは増長天なり、華とは広目天なり、経とは毘沙門天なり。此の妙法の五字は五番神呪なり。五番神呪は我等が一身なり。十羅刹女の呪は妙の一字を十九句に並べたり。経文には「寧^{むし}ろ我が頭の上に上るとも」の文是なり。持国天は法の一字を九句に並べたり。経文には「四十二億」と云へり。四とは生老病死、十とは十界三千、二とは迷悟なり。持国は依報の名なり。法は十界なり。増長天は蓮の一字を十三句に並べたり。経文に「亦皆随喜したもう」と云へり。随喜の言は仏界に約せり。広目天は華の一字を四十三句に並べたり。経文に「諸の衆生に於て饒^{によやく}益する所多からん」云云。毘沙門天は経の一字を六句に並べたり。経文に「是の経を持たん者を」等の文是なり^{これ}云云。